

接合科学カフェ 第17回「こんなこともやっている！？ ～日本でも居心地のいい研究所生活を～」の開催

植原 邦佳

技術部 技術職員

令和5年11月1日(水)にアートエリアB1(京阪電車中之島線『なにわ橋駅』地下1階コンコース)で第17回 接合科学カフェが開催されました。

接合科学研究所は、日本人教職員を対象に「日本語学習支援者養成プログラム」を開講しています。これは、外国人研究者や留学生との研究所でのコミュニケーションを、日本語を介することで活性化しようという取り組みです。今回は、カフェマスターの三上欣希教授の司会進行のもと、ゲストスピーカーに本プログラムの講師である大阪大学日本語日本文化教育センターの松岡里奈特任講師を迎え、受講者や研究所内の外国人教員の体験談を交えてプログラムを紹介しました。

始めに、日本語学習中の Hong Seong Min 助教とプログラムを修了した植原邦佳技術職員が研究所内で日常的に交わされる日本語の会話を再現した劇を行い、植原技術職員が行う留学生対応のプログラム受講前後の変化を会場の皆様にご覧いただきました。

次に、松岡特任講師から「留学生を受け入れるのではなく留学生と日本人が互いに歩み寄って研究所を創る」というプログラムの考え方が紹介され、プログラムを構成する3要素のひとつである“やさしい日本語”のミニ講座が行われました。さらに、「日本語学習支援者養成プログラム」と同様に日本文化教育センターの協力を得て接合科学研究所で開催されている理系学生のための日本語講座についても紹介され、研究所内で日本語を学ぶ外国人研究者と彼らの日本語使用をサポートする日本語学習支援者との相乗効果についても示されました。

植原技術職員は、「プログラムを受講したことで外国人と話すときは英語を話さないといけないという思い込みが払しょくされ、彼らに気軽に声をかけられるようになった。さらに、日本人学生に対しても思いやりの姿勢を示せるようになった。」と受講後の変化について語りました。また、Hong 助教は、「“やさしい日本語”を使う日本人と会話をすると、日本語を話そうというモチベーションが高まる。日本語でコミュニケーションをとることで日本文化に溶け込んでいると感じる。」と、話しました。

最後に、“やさしい日本語”だけでなく異文化理解や日本語教育について同時に学ぶ本プログラムが、他に類をみないプログラムであることが示され、接合研の新しい取り組みを皆様にご紹介いただくことができたように思います。

次回の第18回接合科学カフェは令和6年1月に開催予定です。次回以降も接合科学研究所の様々な取り組みを皆様にご紹介しますので、研究所ホームページでのご案内をお待ちください。



会場の様子